

熊本県美里町 Misato Town

面積 144.03km²、人口 11,931 人、世帯数 4,255 戸。熊本県のほぼ中央に位置しており山地丘陵部が多く、町の 75% を森林が占める中山間地域であり、釈迦院川などの河川も流れ、豊かな自然に包まれた町である。また 3333 段の「日本一の石段」があり、町内外を問わず多くの人が訪れている。



計なこととは言わないんですが、指揮者としてはそうはいきません」指導するところはきびしく指導し、話し合いを重ね、幾度となくけんかもしたと言う。しかし大会が終わって残ったのは、心がつながった仲間たちだった。「二



美里町女性消防隊の人数は現在 25 人、平均年齢は 46 歳。主に子育てが一段落した女性を中心に構成され、合併当初から操法大会に出場している。操法競技は長い練習が必要だ。午後 7 時 30 分から毎日のように行われた練習は、同じ隊や他の分団からのサポートで進めることができた。「わたしたちが頑張るだけでは駄目だったんです」と指揮者の森口千代美さんは語る。

初の県大会、初の全国

平成 21 年 8 月、熊本県で初めて女性消防団員の操法大会が行われ、12 チームの中から見事優勝に輝いたのは「美里町女性消防隊」だった。同隊は同年 10 月に行われた全国大会に熊本代表として出場し、準優勝という素晴らしい成績を残した。熊本県を代表して活躍した彼女たちは防災をどのように考えているのだろうか。

消防団の団員数の減少も全国的な問題だ。昭和 27 年には 200 万人いた消防団員も平成 2 年には 100 万人を割り込み、平成 21 年では 88 万人と減少を続けている。団員減少を抑えるために、消防庁は若者や女性の入団を促進している。特に女性消防団員は、平成 21 年団員数が 17,879 人と 15 年前に比べて 10 倍程度の増加をしている。しかしそれでも全団員の 2% しかなく、団員数としては少ない。大津町の女性消防団員数は 4 人。多いとは言えないのが現状だ。ここでは先進地の女性消防団員にスポットを当て、女性団員の役割に触れる。

その恩に返るために選手たちは事前に自主練習を開始し、最後には選手全員が 7 時には練習を始めていた。

そして県大会では見事優勝。「優勝したことよりも競技をやり切れたことが何よりもうれしかった」と選手たちは大会を振り返った。

2 カ月後の全国大会でもそれは変わらなかった。練習したすべてを出し切り、練習でも、県大会でも出せなかったタイムを更新した。その「51 秒 29」のタイムは大会最速のタイムだったが、総合得点で惜しくも優勝は逃した。しかし 9 カ月にわたる練習と結果には悔いは無かった。それは仲間とのつながりができたからだった。

伝われば、つながる

競技には、選手の連携がとても大切だ。森口さんは伝えることの難しさを操法で知った。「わたしはもともと余

つのことに向かって仲間と努力したこと、心がつながったこと、今まで経験したことのないうれしさでした」言葉を詰まらせながら気持ちを語ってくれた森口さん。伝えることはつながること―大会の結果よりもすばらしいものを得た確信が伝わってきた。

「操法だけ」じゃない

女性消防隊員は、防災のために多くの活動を始めている。AED の指導のために中学校に向いたり、一人暮らしの高齢者を訪問したりしている。「操法大会がない今年は高齢者の訪問を重点的に行いたい」と話すのは隊長の松本都々子さん。「個人情報保護などがあり難しいのですが、地域のためを思うとわたしたちにできることをやらなければならぬと思っています」操法大会の結果が素晴らしかったからこそ、女性消防隊の活動は操法だけではなく、女性消防隊長の思いが光る。

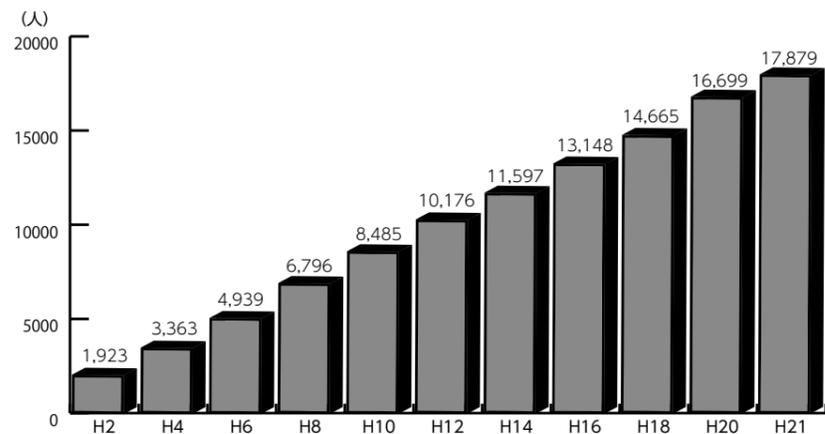
一つのことには情熱を持ち、つながり、そして行動を起こした― わたしたちは、この人たちから得ることができるものは大きいはずだ。

女性の底力

消防団や自主防災組織の中で期待される女性の活動。ここでは、団体や市町村を越えた視点で女性の活動や考え方を覗いてみる。



上段左から、森口千代美さん(47)、赤星紀子さん(41)、松本富美代さん(47)、上田秀子さん(54)
下段左から、園田豊子さん(47)、松本都々子隊長(54)、藤岡久美子さん(43)
隊の最高年齢は 58 歳、平均年齢 46 歳。人数を増やすよりもこの人数で質の高い活動を目指して日々努力しています



全国の女性消防団員数の推移

INTERVIEW



大津東区女性消防自衛隊

蔵原タカ子さん

平成 16 年に自主防災組織として結成し、現在 15 人で活動しています。なぜ女性消防隊なのかというと、仕事で昼間家にいないことが多い男性に代わって自分たちが地域を守ることができないかと思ったからです。今は初期消火のための訓練やパトロールも行っています。定期的に講習会にも参加して活動の場を広げています。今後は女性だけでなく、多くの人を隊で受け入れることができたらうれしいですね。



大津町女性の会

坂本晶江さん 江藤南美枝さん

昼間は家に女性がいることが多いですが、もしその人たちが災害時の初期消火をすることができるなら、災害を最小限に止めることができると思います。しかし消火器での消火もできない人も多いと思いますので、地域で定期的な訓練ができるようになるといいですね。そのために地域での情報の共有が一番大事だと思っています。各地域で男性も女性も一緒になって、個性を生かして活動する自主防災組織が必要だと思います。

消防団員も自主防災組織の人たちも、防災活動を行う際には人が必要だと話した。大津町消防団の西田健一団長も女性消防団も発足したいと考えている。自主防災組織も各地域で活躍してもらい、女性に向けた研修も行いながら発足に向け

て進めたいと話す。現状は、昼間は女性が家に居ることが多いし、消防団にも女性団員は少ない。命を守ることは、男女の区別などない。男性、女性分け隔てなく防災活動ができる消防団や自主防災組織ができることが町の願いだ。